

新潟県三条市の土田衛さんは結婚式などのイベント企画や若者らへの会話力向上につながるセミナー活動に取り組んでいる。活動の原動力は「口下手で損することが多かった」という自らの経験だ。夢である「新潟の少子化対策に少しでも貢献する」を実現すべく、若者らに自身が経験し身につけた会話術の指南を続ける。

ウェディングプランナー 土田 衛さん



「になれば、自身も変われる」という思いで仕事に励んだが、対人コミュニケーションはなかなか難しく感じ、性格を変えるほどまでには至らなかった。ただ、人の話を聞くことや笑顔で接客することに抵抗がなく、自分の新たな一面を見つけていくことができた。

入社から4年半で営業の仕事は結婚式のプロデュース業だ。「人の要望を丁寧に聞き、上手にまとめる仕事」に魅力を感じた。

起業した2000年ごろは今よりも挙式数が多く、県内でもそれなりに需要があった。仕事の場数を踏むことで人との会話にも自信が持て、「内気な性格」も克服できた感触があった。

潮目が変わったのは11年

若者に会話術、出会い促す

の東日本大震災だ。震災前年までは売り上げも伸び続けたが、震災以降は急減。少子化問題が徐々に浮き彫りとなってきた時期とも重なり、根本的な要因について考えるようにもなった。

「私みたいな口下手な人が増えて、様々な出会いのチャンスが逃している」

そこからは自身の経験をもとに、人との会話やコミュニケーション力を高める活動に注力するようになった。書籍も出版し、中学生や社会人まで幅広い年代に、相手に伝わる「自己PR」の方法や営業で使える会話術などを伝授してきた。近年の若者の傾向や考え方も勉強し、自身のアップデートも怠らない。

仕事を通じ、いつしか夢は新潟・三条から「社会問題の解決に貢献すること」になった。特に急速に進む少子化問題は、今後の県内経済を左右する重要課題だと感じる。若者が新しい出会いのチャンスをつかめるよう「会話力」を切り口にした地元への貢献は続く。

(木村圭)